

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立馬込東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・美術の基礎的技術の学習を通し、積極的に制作に取り組む姿勢を身に付けることができた。
- ・授業内で参考作品の提示や個別指導時の助言によりアイデアを練り直し、自分らしい工夫を加えることができるようになった。
- ・他の生徒の作品、自身の作品を鑑賞し合うことで、自分の作品の振り返りを伝え合う。そうすることで、自身の思いを言葉にして、伝える表現活動ができるようになった。

(2) 課題

- ・知識として得た技法や作業から、新たな表現方法を探求し、独創的かつ想像力豊かな発想を作品に反映させる能力は高まりつつある。しかし、構想を練るのに時間を要し、作品制作までに時間がかかる。
- ・課題解決、主題への掘り下げ、イメージの生み出しへの表現的探究心を高めさせる。
- ・ICT 機器を活用し授業を行ったが、実制作・振り返り活動をより有効な活用的に模索する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較） 実施教科でない。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作する上で、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていく必要がある。色相環や色鉛筆デッサンの学習を通じて、形の捉え方、表現したい色の配色を考えることができた。	発想したことを画面に構成する力、具体的な形や色で表現することに慣れていない。道具の扱いについての準備・片付けを他の生徒と対話を行いながら、協力して取り組むことができた。	美術に対する興味・関心が高く、作品制作に意欲的に取り組む姿勢がある。生活の中にある美術や友達作品などのよさや美しさを感じ取れる生徒が多い一方、計画的に制作する力には課題を感じる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
デッサン、絵の具を使用した着彩活動など、作品制作する上で、基礎的・基本的な技能を身に付けている。身の回りの課題から、制作のテーマを導き、様々な視点で物事を観察して表現している。	道具の扱いを理解し、対象を正確に表現するためによく観察しながら丁寧に取り組むことができている。班活動においても、積極的に意見を交わし合い、お互いに学び合う姿勢を身に付けている。	美術に対する興味・関心が高く、作品制作・鑑賞共に意欲的に授業に取り組んでいる。芸術作品や友達作品のよさや美しさを、自分の制作に生かそうと取り組んでいる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な技能に加え、各単元の特性や技法を理解して	発想を具体的な形や色で表現することに慣れようと、積極的に	余計な私語が多くなり、集中力が切れる時もあるが、お互いに注

いる。構想がまとまりきらずに作業し、迷ってしまい完成に至らない時もあるが、身に付けた技法を積極的に作品に表現している。	タブレットや教科書を用いて制作活動に取り組んでいる。	意し合う姿も見られる。学習の振り返りでは、個々に感じた課題を次時にどのように生かすか。目標を立てて制作に取り組んでいる。
---	----------------------------	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な、基礎的・基本的な技法・技術を身に付けさせるために、ワークシートでの実践や資料集を用いた鑑賞、さらに ICT 機器を有効に活用することで、制作のめあてを明確にした実技指導を実践する。 今後は色や形の違いの特性や効果を生かして柔軟な表現方法に発展させる必要がある。	構想を組み立てるアイデアスケッチの段階で鑑賞の授業を活用し、平面・立体を問わず、様々なものから形や色彩を見だし、独自の発想に再構成する作業を重点的に行う。 鑑賞会等を実施し、自他共に考えたことを言葉や文字で伝えられる力を育む。その際、授業内の規律を正しく守らせ、話し合い活動を有効的な活動にする。	自身が発見した課題を他者に発表し、自ら工夫して取り組む要素を加えた教材を準備する。多様な表現を認め、育む指導を積極的に行う。 お互いの作品を評価し合うことにより、幅広い知識・理解と明確な自分の価値観を育てる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ことばや文章から自身の制作するテーマや課題目標を設定し、作品制作に必要な基礎的・基本的な技法・技術を応用させる。 描画用具の扱い方や技法の紹介動画を ICT 機器で紹介・実践する。有効に活用し、具体的でわかりやすく、より高度な実技指導を実践する。	自他の発想を紹介する機会を増やし、様々なものから形や色彩を見だし、独自の発想に再構成する作業を重点的に行う。互いを意識しながら、自らの作品に活かしていけるようにしていく。 制作のテーマを決める際に、なぜその考えに至ったのか。様々な視点で物事を観察して、制作の軸を定めてから表現活動に導く。	発想力や工夫して取り組む要素を加えた教材を準備し、多様な表現を認め、育む指導を積極的に行う。 目標を設定し課題意識をもって取り組ませる。新しく柔軟な発想力を認め、発想したものを形にするまでの過程から、課題を探究するおもしろさに気づかせる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な、発展的・独創的な技法・技術を身に付けさせるために、参考作品や資料集、また ICT 機器を有効に活用し、具体的に発展的な実技指導を実践する。	班活動で自他の発想を発表する機会を増やし、互いを意識して、自らステップを踏んで、アイデアを深めていけるようにしていく。 発想や表現に自信をもてない生徒もいるため、生徒の制作に対する気持ちや思いに傾聴し、個々が目指す課題を設定する	作業効率を上げるために、材料等の授業準備や教材を再考し、主体的に取り組めるように合理化し、鑑賞の時間を確保していく。 既成の観念にとらわれない、新しく、柔軟な発想力を認め、個々の生徒に自信をもたせ、多様な表現のあり方やその美しさを理解させる。